

## 令和元年度むらづくり審査にあたり

講評：中国四国農政局むらづくり審査会 主査 横溝 功



令和元年度農林水産祭むらづくり部門中国四国農政局表彰式  
令和元年11月11日 岡山市

皆様、本日は、「農林水産祭むらづくり部門」での受賞、誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

審査会の委員を代表いたしまして、受賞団体ごとに審査講評を述べさせていただきます。

### ◆日田集落

鳥取県八頭郡八頭町日田は、標高約150mに位置します。兼業化や高齢化が進む中、米を中心に、白ねぎにも取り組んでいます。以下、「日田集落」の評価すべき点をあげます。

第1に、「農地・水・環境保全向上対策事業」に取り組む受け皿として、平成19年に「日田を良くする会」が設立され、常任役員6名、構成団体代表理事6名が、月に1回、会合を開催しています。

第2に、これを契機に、全戸平等負担から、「できる事を、できる時に、できるだけやろう」を合い言葉に、ボランティア団体「サイコーヒダ」を立ち上げました。

「サイコーヒダ」では、帰省した子どもたちを集めて、川遊びの体験を実施しています。

第3に、平成23年に、鳥獣害対策の強化のため、「日田鳥獣害対策委員会」を立ち上げ、ワイヤーメッシュ柵を、総延長5.4kmにわたり設置しています。

第4に、平成24年に、「日田農業生産組合」を設立され、同年4月に法人化しています。集落のほぼ全域をカバーし、不耕作地がありません。今年度の利用権設定面積は32haに上ります。また、直営の経営面積は16haであります。

なお、農業法人の理事9名、監事1名ですが、若手の準役員6名を選んでいます。平均年齢は60歳と比較的若いことが特徴です。

第5に、本地域は水田地帯で、白ネギ栽培が難しいですが、平成30年には50aにまで伸ばしています。白ネギの収穫調製では、女性が大きく貢献しています。

第6に、平成27年から29年までの3年間で、若手や中年層の8名を委員とする「日田の明日を考える会」を立ち上げ、中学生以上の住民にアンケート調査を実施し、それを基に将来ビジョンを作成しています。

第7に、地域のブランド米生産に取り組むとともに、八頭町の統一ブランド米にも参加しています。

第8に、「日田集落」は、9班に分かれていて、代表である区長は毎年の選挙で選出されます。区長の任期は1年で、3年間は免除されます。それ故、全員が参画する仕組みになっています。

#### ◆五名活性化協議会

香川県東かがわ市五名は、香川県と徳島県の分水嶺に位置し、両県の文化を融合した地区ともいえます。農林業が主要な産業で、最盛期には、人口が1,000人を超えていましたが、現在は300人までに減少しています。以下、「五名地区活性化協議会」の評価すべき点をあげます。

第1に、平成17年の小学校廃校を契機に、「五名活性化対策委員会」を立ち上げました。また、「地域外の人との交流の場」、「地域の憩いの場」をコンセプトに、野菜や地域の特産品を直売する「ふるさとの家」をオープンしました。その場所には、郵便局の旧局舎が活用されています。平成25年に、「五名活性化対策委員会」を「五名活性化協議会」に再編成しています。

第2に、「ふるさとの家」の新施設が建設され、移転し、令和元年7月にオープンしています。新施設は、地元の木材が用いられています。新施設の土地建物は、市の所有であり、本協議会が指定管理になっています。食堂も設けられ、ジビエメニューが提供されています。

第3に、移住者受入プロジェクトでは、人口300人に対して、14組34人の移住実績があります。移住者は、林業関係7名、地ビール製造、家具づくり、陶芸づくり、人形作家、庭師、カフェや美容室の開業、多士済々であります。

第4に、平成27年に、築80年の古民家を改修した「五名やまびこの宿」をオープンしています。改修にはニューツーリズム商品開発等支援補助金を活用しました。宿泊客の満足度は極めて高く、中国からの宿泊客がリピーターになっています。

第5に、「里山活性化プロジェクト」によって、伐採した木材は、薪ステーションで薪・炭に加工、また、椎茸の原木に加工しています。これらは、東かがわ市のふるさと納税返礼品にもなっていて、新たな雇用と付加価値を生んでいます。

当初は、薪の販売が目的ではなく、生態系保全のために、広葉樹の伐採が目的でした。年に1haの伐採を目指しています。伐採後、萌芽更新によって、約30年で伐採が可能になります。なお、五名地区内は1,000haの広葉樹林があり、1haの伐採では1,000年を要することになり、無尽蔵の資源といえます。

第6に、都市農村交流では、「五名で遊ぼう」の情報を発信しています。

第7に、移住者の方々から頂いた声を紹介します。

「五名地区の皆様は、適度に声をかけてもらっているところ、しかし、見守ってもらっているところに、魅力を感じています。」

「里山活性化プロジェクトの雇用が、地域にとってたいへん大きい。」

「1人でベンチャー企業を立ち上げましたが、五名地区がその場を提供して下さったことに感謝しています。」

#### ◆住民自治されだに

愛媛県伊予市中山町佐礼谷は、標高600から800mの山並みに囲まれた中山間地域にあります。米、トマト、キュウリ、栗、キウイフルーツなどが栽培されています。しかし、45年間で人口が約30%減少し、60歳以上が62%を占めています。以下、住民自治されだにの評価すべき点をあげます。

第1に、平成17年の市町村合併を契機に、住民が主役となる地域づくり「住民自治」を推進しました。地域の現実に鑑み、危機意識を持って、平成19年に学習会を開催し、検討委員会を立ち上げています。その際、検討委員会と集落代表とのコミュニケーションを密にしました。

第2に、平成20年に、「佐礼谷地域自治振興会」と「佐礼谷地区公民館」を母体に、地域にトータルで関わる組織「住民自治されだに」を発足させました。

第3に、「佐礼谷地域まちづくり計画」を策定し、地域の将来像を描いています。基本方針は、「地域福祉の推進」、「地域の活性化」、「地域環境の整備」の3本柱です。この3本柱の実現のため、「公民館部」、「福祉部」、「活性化部」、「環境部」の4部を組織しています。

第4に、平成24年から、初代会長が標高300mの地元の丘に、菜の花を植えるなどの手入れをしています。現在は、1.5haの「黄色い丘」として、見物客を集めています。大型の蝶々「アサギマダラ」も飛来しています。初代会長は、NPO法人「佐礼っこ」を申請し、平成25年に認証されました。

なお、会長は、現在4人目で、人材の豊富さを物語っています。

第5に、特産品開発に関わる女性が、「イエローキッチン」を立ち上げ、特産品「されだにゆずこしょう」を産み出しています。「黄色い丘」の麓にレストラン「ゴリラハウス」も営み、地域の食材を活かした食事を提供しています。

また、特産品「されだにゆずこしょう」のゆずすり体験では、婚活等の交流の場を目指しています。

第6に、ほたる祭り・されだにきてみん祭（収穫祭）を開催し、手作り案内パンフレットを作成しています。

第7に、されだにベジタブルガーデン（SVG）との連携で、農地の保全のため、さつまいもの植え付け、および児童によるさつまいもの収穫も実施されています。

第8に、平成30年に、「空き家バンク」に登録しています。外部から定住するという実績もあげています。